

# メガイベントと都市の暴力

近代以降の大都市においては、万国博覧会やオリンピックをはじめ、様々なメガイベントが実施されてきた。とりわけ近年のメガイベントにおいては、本来の開催意義に商業主義的な観点が加えられ、都市への集客を見越した大規模なインフラ整備や再開発が引き起こされ、都市間競争における価値を向上させるような、スペクタクルできらびやかな都市景観が生み出されるきっかけにもなっている。その一方で、都市行政の財政赤字や公共サービスの低下を引き起こすとともに、都市再開発に伴う地価の上昇によって既存の住民を追い立てるなど、都市に生きる人々を排除する暴力性が露見していることもまた事実である。実際、コロナ禍のなか多くの反意があったにも関わらず強行された今般の東京オリンピックにおいても、国立競技場周辺の都営アパート撤去によって住民たちは立ち退きを迫られるとともに、都市内の野宿者を排除する事案も報告されている。

今回の講演会の講師となる原口剛氏は、これまで都市社会地理学の見地から、大阪釜ヶ崎の日雇労働者や港湾労働者を対象に研究を進めるとともに、開発主義のもとでの都市のインフラ整備や、新自由主義的な都市のあり方に対する批評を積極的に発信している。原口氏には近年の社会・空間理論を踏まえて、東京や大阪の事例を提供してもらい、誰にとっての都市か、都市は誰のものか、という問題意識のもと、メガイベントと都市の暴力性の関係性について考える機会としたい。

同志社大学人文科学研究所助教

本岡 拓哉

## 登壇者プロフィール

### ■ 講演者

#### ▶ 原口 剛（はらぐち たけし）

神戸大学大学院人文学研究科准教授、専門は都市社会地理学および都市論

2007年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程修了、博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）や大阪市立大学都市研究プラザ研究員などを経て、2012年より神戸大学大学院人文学研究科准教授。著書に『叫びの都市—寄せ場、釜ヶ崎、流動的下層労働者—』（洛北出版、2016年）、訳書『ジェントリフィケーションと報復都市—新たな都市のフロンティア—』（ミネルヴァ書房、2014年）、論文「ロジスティクスによる空間の生産—インフラストラクチャー、労働、対抗ロジスティクス—」（『思想』1162号、2021年、北川真也との共著）などがある。

### ■ コメンテーター

#### ▶ 本岡 拓哉（もとおか たくや）

同志社大学人文科学研究科専任研究員（助教）、専門は人文地理学、都市史

2009年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程修了、博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）や立正大学地球環境科学部特任講師などを経て、2020年に同志社大学人文科学研究科専任研究員（助教）。著書に『「不法」なる空間に生きる—占拠と立ち退きをめぐる戦後都市史—』（大月書店、2019年）、論文「戦後都市、「不法占拠／居住」をめぐる空間の政治」（『歴史学研究』963号、2017年）などがある。最近では戦後京都の都市史を対象とし、特に橋の下に住まう人々をターゲットに研究を進めている。

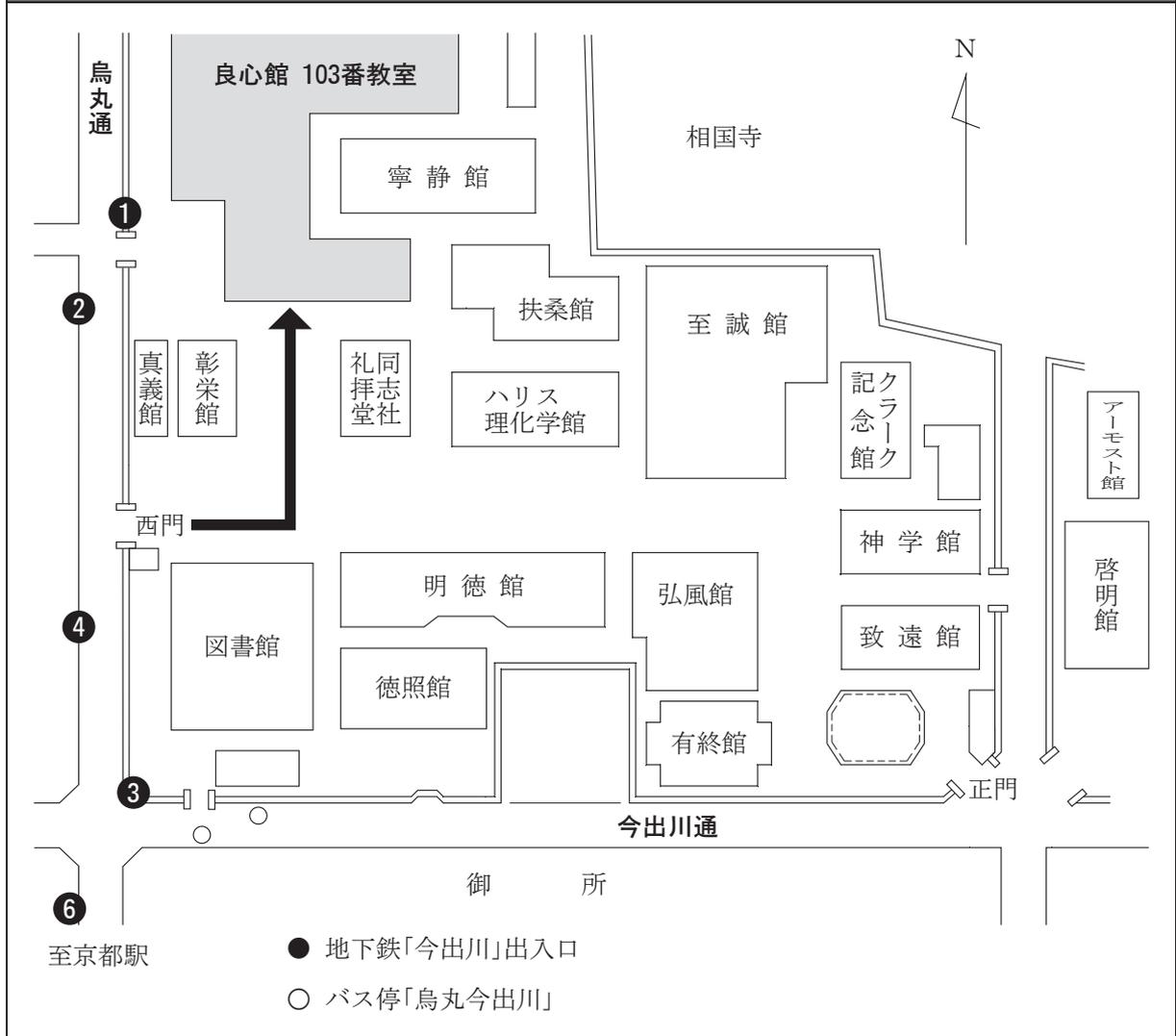
### ■ 司会・進行

#### ▶ 森 千香子（もり ちかこ）

同志社大学社会学部教授、専門は国際社会学、都市社会学、レイシズム研究。

2010年、フランス社会科学高等研究院社会学研究科博士課程修了、博士（社会学）。南山大学外国語学部、一橋大学大学院法学研究科などを経て、2019年に同志社大学社会学部教授。著書に『排除と抵抗の郊外 フランス〈移民〉集住地域の形成と変容』（東京大学出版会、2016年）、共編著に『移民現象の新展開』（岩波書店、2020年）などがある。最近では日常人種主義（everyday racism）と都市研究の接合、特に空間と差別の相互作用の理論的精緻化を目指して研究を進めている。

# 同志社大学今出川キャンパス案内図



## ▼最寄駅 <京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅>

J R 「京都」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

京阪・叡電 「出町柳」駅より西へ徒歩15分、または市バス201号・203号で西へ約5分

近鉄 「竹田」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

阪急 「烏丸」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

**会場へは公共交通機関をご利用ください**

【駐車場はありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください】